

## 演題

腫瘍増悪化における遺伝子発現制御機構の解明

## 講師

大阪大学大学院 医学系研究科  
遺伝子治療学・准教授

二村圭祐 先生

## 日時

2019年1月11日（金） 16:00～

## 場所

理学部 A 館 222

私達は先天性疾患や癌の病態の根底にある分子メカニズムを解明することにより、遺伝子発現制御の新たな機序を明らかにすることを目標とし研究を行っています。これまでの研究から、H3K36メチル化酵素 WHSC1 (NSD2, MMSET) の欠損が発達遅延や心奇形を特徴とする先天性疾患 Wolf-Hirschhorn 症候群の原因であることを見出しました [Nimura et al. Nature, 2009、Lee et al. PLoS ONE, 2014]。また心発生に重要な転写因子 Nkx2-5 がエクソヌクレアーゼ Xrn2 と協調して、転写終結点を決定していることも見出しました [Nimura et al. eLife, 2016]。最近では、B細胞活性化においてダイナミックなクロマチン構造変化が誘導され、MYC が重要な役割を担っていることを解明しました [Kieffer-Kwon\*, Nimura\* et al. Mol Cell, 2017 (\*co-first)]。これらの成果を基に、現在、遺伝子発現制御の視点から癌の増悪化機序の解明に取り組んでいます。本セミナーでは、私達が現在取り組んでいる RNA スプライシング制御による癌の増悪化機序について紹介したいと思います。

問い合わせ先 分5 白石 (ex.2997)